

# 黒崎羊二氏 連続講座 「住まいから考えるまちづくり」

—住民目線のコミュニティ再生—

## 第9回（6月16日開催）「住まいの改善を「共同」で実現」

第9回講座(6/16)は、住まいの改善を検討する基本方針として、「個々の世帯の事情を優先させる」、「身近な問題から合意を重ねる」、「参加が困難な権利者の条件を基本とする」、「生活者の共通する課題を「公益」として確認」について、具体的状況をイメージしながら現状の住まいの問題が浮き彫りにされました。

分かりやすい例として、マンションの建替問題があります。少数者の切り捨てにつながる「多数による建替決議」を先行させ、住まいの改善が妨げられるようなことがしばしばおこります。これは民主主義の誤用によるもので、零細権利者、賃貸入居者など、もっとも不利な条件を基準とするならば、権利者全員の納得を得ることが容易にできます。そこではすべての権利者の意向や条件に対応する選択肢が用意され、そのメニューを選ぶことによって、異なる要求を持つ人々の満足度を等しくすることができます。

これと同様な考えを建築設計の面から伴年品さんが提唱しています(建築とまちづくり誌4月号「建築まちづくりに取り組む構えの大進化を—プランからメニューへ」)。建築環境の変化のもとで建築作法の大変換を求め、「プランの良し悪しではなく、プランを出すことそのものの弊害を認識」し、「一人ひとりを大事にして『あらゆるメニュー』を住まい手に公開」し、「住まい手の主体性のもとにメニューが選択され、進化する」。その相互作用は「究極の民主主義」に行き着くとしています。講座参加者一同深く感銘を受けました。

### 参加者 意見

**住まい、人権、平和、民主主義などについて…抽象の話ではなく、日常の生活や業務の根底にある具体的・現実の課題です！**

- 平和の問題は住まいに密接と実感した。
- あたりまえの日常生活が繰り返してできることが平和。
- (黒崎) 日常生活の中で平和が実感されていない。平和を受動的に捉えるのではなく、生活・業務上に作用する平和を阻害する力・権力を認識し、日常的具体的課題として対応する。
- 工場跡地にマンション建設が進む。自治会としてなす術がない。住まいの問題を考えるに当たっては、経済行為ははずせないのではないか。
- 利潤追求と経済活動は異なる。モノづくりの一端にいる私たちが忘れてはいけないこと。人間がモノをつくるのは生産活動であり、モノは生活に役立って豊かにしてくれるが、全ては自然の恩恵をうけている。
- (黒崎) 経済成長優先が現在の閉塞的社会状況を生む。企業内部でも「企業の論理」がすべてを支配できるものではない。「生活者の論理」を基本とするには、生活者の価値観を変えねばならない。「住まいは人権」を「建前」とせず、生活実態のなかで捉え、日常の課題としたい。

第三期（第10回～第12回講座）ご案内 ★夏休みでも第三火曜です★

第10回 7月21日(火) 19:00～21:00  
合意形成を阻む状況

第11回 8月18日(火) 19:00～21:00  
まちづくり合意の原則

第12回 9月15日(火) 19:00～21:00  
まちづくりの展望～まとめ

会場：まちづくり研究所  
(渋谷区恵比寿1-13-6  
第2伊藤ビル503)

参加費：1200円(600円) / 1講座  
連絡先 tel：03-5423-3470 (川田・藤巻)